

11月25日開催「パイプオルガン大規模修理をのぞいてみよう！」いただいた質問への回答

質問事項	回答
<p>●オルガンビルダー、技術者の職業に関すること</p>	
<p>職人さんは何をきっかけにオルガン製作に携わるようになったのですか？特に日本で生まれて育った方は、どういった経緯があるのかな、と気になりました。</p>	<p>オルガンが好きということがきっかけの場合もあれば、その他さまざまです。</p>
<p>技術はどこで身につけたのですか？修理職人になるには、どうすれば良いのですか？</p>	<p>様々な方法があるので一概には言えませんが、ドイツでは徒弟制度があり、オルガン工房に徒弟として在籍しながらオルガン製作の学校に通うというパターンが一般的なようです。</p>
<p>オルガンの大規模修理を出来る職人は世界で何名くらいいらっしゃいますか？</p>	<p>多くの職人がいると思いますが、正確な数字はわかりません。</p>
<p>日本のヤマハの3名の方は、普段からオルガンオーバーホールの仕事をされているのですか？期間限定でしょうか？</p>	<p>オーバーホールに限定せず、普段からパイプオルガンのメンテナンスや調律などしています。</p>
<p>この仕事をしていて喜びを感じる時は？</p>	<p>オルガンを聴いて多くの人が喜んでくれた時。</p>
<p>日本以外にも行かれていますか？</p>	<p>ベッケラート社は世界の様々な国へオルガンを製作しています。</p>
<p>●プラバホールオーバーホール作業に関すること</p>	
<p>1週間の間、お休みの日はありますか？休みなくだと大変です。</p>	<p>プラバホールの現場では、土曜、日曜が休みです。</p>
<p>ベッケラート社と本ホールで出したい音が違ったりした時のすり合わせは難しくありませんか？</p>	<p>基本的にはビルダーの理念を尊重しますが、すり合わせが難しい場合もあります。</p>
<p>たくさん部品があるが、修理中はどのように保管しているのか教えてください。</p>	<p>わかりやすくグループごとに分けて保管します。</p>
<p>ドイツで作ったパイプオルガンの部品はどのように日本へ運ばれるのですか？輸送手段は何ですか？</p>	<p>オルガン本体を輸送する場合は海上コンテナで運ばれることが一般的かと思いますが、今回の作業で使用する部品は空輸で運ばれました。</p>
<p>集塵機が無いがどう処理している？</p>	<p>掃除機で埃を吸い、拭き掃除をしています。</p>
<p>メンテナンスをしていて、一番困難な作業は何ですか？</p>	<p>様々な要素があるため、何が一番困難かは限定しにくいですが、音に直接関わる作業では特に神経を使います。</p>
<p>今、作業はどこまで進んでいますか？</p>	<p>12月末時点で、清掃やメカニック調整、コンビネーション(記憶装置)の電子化などがほぼ終わり、1月からはパイプの整音が始まります。</p>
<p>オーバーホールにあたり、ドイツから持ち込んだ道具はありますか？</p>	<p>基本的な手工具のみで、他は日本側で用意しています。</p>

日本とヨーロッパでは気候が違いますが、オルガンの修理・調整での違いはあるのでしょうか？	湿度変化で調整を要する箇所の調整頻度は若干違うかもしれませんが。
今回のオーバーホールで、楽器の機能と高めるといっていますが、コンピューターの搭載は今回が初めてなののでしょうか？	似たような機能はありましたが、今回はより近代的なシステムを搭載しました。
電気無しでは演奏できなくなるという事でしょうか？	はい。このことは改修前から変わりません。
一台のパイプオルガンに修理をする期間はどれくらいでしょうか？(プラバホールの規模)	修理の内容によります。プラバホールの今回作業は13~14週間程度です。
修理をしたことで音色に変化がありますか？	埃の堆積や経年変化により変わっていた音色が、今回の作業により設置当時の音色に回帰するような変化があると考えられます。
37年分のホコリの量はどれくらいなのでしょう。	量は分かりませんが、場所によっては大きな綿埃が多く堆積しています。
●オーバーホールや修理全般に関すること	
メンテの仕方の基本は共通だと思いますが、職人お一人お一人で個性が出るのでしょうか。	作業方法は基本的に共通ですが、ごくわずかな違いは出るかもしれません。
長年の経験と技術の継承はどのように行われているのか。	経験者とともに仕事をし、経験を積むことで技術継承されます。
製造する人は修理もできますか？	基本的には製造する人は修理の対応もできます。
年間でどれくらいの量を修理しているか知りたいです。	その年によって異なります。また、修理以外にも様々な作業を並行して行っています。
オーバーホールはだいたいどのくらいの期間に一回なものでしょうか。	一般的には20年に1回程度とされています。
パイプのへこみはどのように修理するのですか？	パイプの中に型を入れて叩くなどです。
日本の職人さんのみでは修理出来ませんか？	修理する場合がありますが、今回のような作業は製造元の技術者による作業が望ましいと考えます。
パイプオルガンごとに構造・音色が違うとのことですが、どのように対応していますか？	楽器ごとに合わせて対応しています。
一番最初に点検・確認・修理をする部分は決まっているのですか？一体何から始めるのでしょうか？修理にかかる期間はどの位ですか？	一番初めに作業前の楽器状況確認をします。(音程ビッチの確認、各機能の動作状況等)その後は修理内容によりさまざまです。
●松江・ドイツの文化、この度の来松に関すること	
松江の印象を教えてください。食べ物、街の雰囲気など。	風景が良い、湖が綺麗、食べ物がおいしい。

●プラバホールのパイプオルガンに関すること	
プラバのパイプオルガンの特徴とアピール点は何ですか	基本になるパイプ群がとてもまろやかな響きで、バロック音楽からロマン派、近現代作品まで演奏できます。
一番小さなパイプは何センチですか。	およそ1cmです。
送風機(ふいご)のモーター容量は〇〇kw?	楽器の規模によって多少異なるかと思いますが、プラバホールの場合は、0.75kwです。
色々な音色が出せるようになるなら、演奏家は大変そう！新たに勉強されるのですか。	そのオルガンの能力を最大限に出せるように、時間をかけて様々な音色づくりを試します。
このオルガンでのおすすめの曲を教えてください。	バッハ以前の曲から現代曲まで、たくさんありすぎて絞るのは難しいです。これからのコンサートにご期待ください。
●パイプオルガン全般に関すること	
各所で個性があると思いますが、ご自身のお気に入り、どこのオルガンでしょうか。	それぞれに素晴らしいところがあり決められません。
オルガン音楽の作曲者と話して新しい音色を作ることがありますか？	注文を受けて新しい音色を作ることは稀にあるようです。
オルガン音楽はどんな民族的な音楽と合うと思いますか？	例えばフランスの作曲家ジャン・アランやフローレンツは、アフリカ音楽の影響を受けてオルガン曲を書いています。
パイプオルガンの鍵盤は弾いた時はピアノのように重いのでしょうか。	軽いものもあれば重いものもあります。鍵盤の仕組みがピアノとオルガンでは全く異なるので、重さや深さ、タッチの感覚は様々です。
パイプオルガンでパイプ本数が10,000本ものものもあるが、本数が増えることで何がかわるのか？例えば音色が増える？	予想されている通り、本数が増えると音色も増えます。 例えば手鍵盤に鍵盤が58鍵ある場合、一つの音色で58本のパイプがあることになります。 パイプ群が2つになれば合計116本のパイプが備わり、音色はそれぞれ、2つあわせた場合の3種類となります。
調律時の室温と実演奏時の温度差で音に変化はないのか？ラ(440Hz)一周波数が変わらないのか？	音程は多少変化します。 室温が高くなればパイプは他の管楽器と同様に音は高くなっていきます。
世界中では一年中パイプオルガンの修理の仕事が有るのですか？それとも新製品の製作もされているのですか？	どちらもあります。
世界でパイプオルガンは年間何台くらい新たに作られているのでしょうか？	正確な数字をあげるのは難しいです。
パイプオルガンにコンピューターが使われていてびっくりしたのですが、いつ頃から使われるようになったのですか？	詳細はわかりませんが、コンピネーション（記憶装置）の電子化は20世紀初頭頃のようなようです。
パリのノートルダム大聖堂のパイプオルガンは幸いなことに水はほとんどかからなかったが、もし全体に水がかかった場合の処理は？	被水度合いにより様々な修理方法を検討し、全解体、一部解体等、状況に適した方法での修理が行われると考えられます。金属のパイプは清掃後に再使用できるものがあると思います。